

3. 天理市で想定される被害

南海トラフ沿いでプレート境界地震が起こった場合

地震マグニチュードが8～9であっても、天理市内で観測される最大震度は5強程度となります。したがって、この揺れによって、市内の一部で断水や停電が発生すると予想されています。気を付けなければいけないのは、1981（昭和56）年以前に建てられた古い住宅は、一部損壊する危険性があります。屋根瓦がずれたり、柱や床が少しかたむく、戸や扉の開け閉めの時に変な音がしたり、ピタリと閉まらないようなことがあれば、耐震診断をうけて、危険がないかどうか確かめなければなりません。

もし、問題が見つければ耐震補強しないと危険です。なぜなら、その後に奈良盆地東縁断層帯地震が起これば、補強していない家は確実に全壊・倒壊するからです。

奈良盆地東縁断層帯地震が起こった場合

いきなり最大震度7、6強や6弱が天理市内で発生します。これに伴って、古い住宅などの全壊・倒壊が発生し、奈良県が実施した被害想定では、天理市内で約430人（奈良県全体で約5,200人）の市民が犠牲になるという結果が得られています。その他の被害は、下表の通りです。

※天理市内の震度は、裏面のとおりです。このマップは、全国の地質調査等の最新データを基に作成しています。震度は、活断層からの距離だけをもって決まるものではなく、地質や地盤の強度等の影響も受けます。

項 目	被害の内容
死者	約430名
負傷者	約950名
住宅全壊	約10,200棟
住宅半壊	約4,900棟
火災発生	約100件
避難者	約23,500名
断水	約24,600世帯
停電	約24,800世帯

地震直後の天理市内の様子

- ・地震直後、天理市のほぼ全域で、停電と断水が発生します。
- ・奈良県内を走るJR西日本、近鉄の各線が不通になる可能性があります。
- ・地震の液状化によって、市内道路はもとより、天理市を通る県道と西名阪自動車道や名阪国道、国道24号線も通行が困難になります。
- ・そのために、天理市全域が一時的に陸の孤島になると考えられます。
- ・もし、地震が夜中に起これば救助・救命活動にも大きな障害が発生すると予想されます。